

令和3年度（2021年度）第4回公立大学法人熊本県立大学経営会議 議 事 録

日 時：令和3年（2021年）12月22日（水）午後2時～午後2時55分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出席：理事長 白石 隆
副理事長（学長）半藤 英明
理事（副学長）堤 裕昭 *オブザーバー
理事（事務局長）平井 宏英
理事 本松 賢
委員 櫻井 一郎
委員 横田 桂子
委員 古荘 文子
委員 江頭 実 ※
監事 河喜多 保典
監事 本田 悟士

※印は、公立大学法人熊本県立大学経営会議運営規程第3条第1項の規定に基づく書面での意思表示による出席者。

事務局：川元次長、三隅教務入試課長、楨原学生支援課長、松永企画調整室長、丸山総務課長、犬塚地域連携政策センター事務長、松本学術情報メディアセンター事務長心得、宮本国際教育交流センター事務長、坂本総務課総務班長、井総務課財務班長、井上監査室長、吉田総務課総務班参事、松本企画調整室参事、武末企画調整室参事

1 開会（進行：川元次長）

2 理事長あいさつ

3 議題（議長：白石理事長）

（1）審議事項

①認証評価の受審に向けた自己点検・評価（案）について

事務局から、資料1に基づき認証評価の受審に係るこれまでの経緯、申請までのスケジュール、申請後のスケジュールの概要、『自己点検・評価報告書』の記載概要、それぞれの基準の評定について説明があった。

委員より、問題点が特になければS評定でもいいのではないかと、また、基準の4（教育課程・学習効果）のグローバル人材の育成のところでは語学の習得が十分でないとの話も少し聞いているが、学生の語学習得が思うようなところまでいっていないといった問題点がもしあれば、評定はAであっても問題点として記載した方がいいのではないかと意見が出された。

学長より、ご指摘のとおりであり、評定については大学基準協会の評価の内容を勘案して評定していること、また、問題点の記載という点については『自己点検・評価報告書』に盛り込むべきものであり、それを踏まえた記述をしていくとの回答があった。

委員より、基準9（社会連携・社会貢献）はS評定となっており、大変喜ばしいが、この中の「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点の形成事業に関して、1か月ほど前に「雨庭」の設備についてテレビ放映されたが、他大学の大学院生だけで本学の学生が関わっていなかった。

この事業に本学の学生が関わる予定があるのか今後の方向性を教えてほしい、との意見が出された。

学長より、スタート時点では関係する知見をもった人材で始めているが、島谷特別教授は本学の学生の人材養成を見据えた取組を推進していくという方針であり、今後は本学の学生も関わっていく予定との回答があった。

委員より、自己点検・評価ということでアナログ的な書き方になっており、少し数値（KPI）を入れた方がわかりやすいのではないかと、また、基準2（内部質保証）では、独立した内部質保証推進委員会を設置したことは評価できること、さらに、基準7（学生支援）では、新型コロナウイルス感染症に対する支援について記載がないが何か支援を行ってほしいと教えてほしい、との意見が出された。

学長より、『自己点検・評価報告書』には随所に本学の新型コロナウイルス感染症の対策や支援について記載し、また、認証評価機関からも記載するよう求められている。その中で、特に本学独自の取組ではないため長所としては記載をしていないが、記載内容については精査していきたいとの回答があった。

また、事務局長・副学長より、経済支援として学生に対する国からの支援金の提供や後援会・紫苑会等と連携した物資の提供、遠隔授業の支援として学生へのiPadの貸与を実施したとの回答があった。

審議の結果、案に委員からの指摘の修正を加えていくことが了承された。

②学術情報メディアセンター及び地域連携政策センターにおける組織改正及び規程の整備について

事務局から、資料2に基づき、組織改正の目的及び概要、組織改正後の名称及び管理者名、改正の時期、今後のスケジュール、組織改正に向けた規程の整備について説明があった。

委員より、組織図を見ると分かりやすくなっており評価できるが、想定する人件費の増加の予算は確保できているのかとの指摘があり、事務局より、確保できているとの回答があった。

審議の結果、案のとおり承認された。

③教員の採用に係る枠取りについて

学長から、資料3に基づき、次の6件について、いずれも令和5年(2023年)4月1日採用予定として枠取りを行いたいとの説明があった。

- i) 文学部英語英米文学科 英語学・言語学・対照言語学 教授、准教授または助教
- ii) 環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻 森林資源学 准教授
- iii) 総合管理学部 産業組織論 准教授または助教
- iv) 共通教育センター データサイエンス 教授または准教授
- v) 共通教育センター 地域研究ならびに地域社会学(もやいすと) 教授または准教授
- vi) 共通教育センター 英語教育 教授または准教授

委員より、データサイエンスの教員採用に関連して、データサイエンスの学習には数学Ⅲの知識が必要であるので、数学Ⅲの知識がない学生には補講も含めて行ってほしい、との意見が出された。

理事長、副理事長より、補講等を含めて必要な措置を行っていくとの回答があった。また、理事長より、今回の枠取りはデータサイエンスと地域共創、特に球磨川地域との地域共創に重点を置いた人事になっているとの補足があった。

審議の結果、案のとおり承認された。

④令和3年度12月補正予算（案）について

事務局から、資料4に基づき、令和3年度12月補正予算（案）について説明があった。

審議の結果、案のとおり承認された。

(2) 報告事項

①副学長の選考について

副理事長から、資料5に基づき、次期副学長についての報告があった。

②教育の内部質保証に係る改善のための助言、指導の実施について

事務局から、資料6に基づき、第1回内部質保証推進委員会における審議結果を踏まえ、教務委員長に対して助言・指導を行ったとの報告があった。

4 その他

- 次回経営会議は、令和4年（2022年）3月16日（水）に開催予定。

5 閉会

以上